

はじめに

「漱石山房」は、文豪・夏目漱石が晩年の9年間を過ごし、数々の名作を執筆するとともに、弟子達と活発に交流し、木曜会と呼ばれる文学サロンを開催した文学史上において重要な場所でもあります。



漱石山房にて、大正3年(1914)12月

新宿区では、早稲田南町にある夏目漱石終焉の地に、「漱石山房」の復元を含む記念館を整備し、土地の記憶を継承するとともに、多様な人々が集い交流する区の文化観光拠点として活用を図ることを目指しています。整備に向け必要な事項を検討するため、『(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』を設置し、学識経験者、近隣にお住まいの方や公募委員の方々等も加わって、話し合いや類似施設の視察などを行い、平成25年3月をめどに基本計画案とりまとめいく予定です。この通信では、検討会の様子をお知らせしていきます。

『第1回(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』の報告

8月25日(土)午前、榎町地域センターにおいて、第1回検討会が開催されました。



会場風景

検討委員は計28名で、夏目漱石親族・関係者の特別委員2名と学識経験者、区内企業代表、夏目漱石・記念年実行委員会代表、地域団体代表、公募委員、近隣居住者による委員26名で構成されます。第1回はそのうち26名(欠席2名)と、中山弘子新宿区長が参加しました。

区長による委員委嘱と挨拶の後、特別委員よりご挨拶をいただきました。各委員による自己紹介、事務局紹介、事業概要説明の後、昨年度実施した『漱石山房』の復元に関する基礎調査の監修を担当した中島国彦委員、中川武委員より、基調講演として、基礎調査における成果と課題、(仮称)「漱石山房」記念館の可能性などについてお話しいただきました。最後に座長の選出が行われ、座長は中島国彦委員、副座長は中川武委員に決定しました。

特別委員のおはなし

○半藤末利子氏

〔夏目漱石孫、松岡謙・漱石長女筆子夫妻の四女〕

書齋と弟子達が集まった客間を、できるだけ当時に近いかたちで復元していただけると嬉しい。施設を維持していくのは大変なことなので、喫茶室や施設の貸出等、収益性とリピーターを確保する仕組みを考え、長続きする施設にしてほしい。



半藤末利子氏

○小宮里子氏〔小宮豊隆(漱石弟子、評論家・独文学者)三女〕

※当日はご親族がメッセージを代読

縁の地に漱石の資料が集められ、研究者、愛読者、これから教科書などで漱石を学ぶ学生など、幅広い人々が集まることを期待している。

木曜会には幅広い多彩な才能を持つ弟子たちが集まってきた。そこでは漱石を中心に交流し、学びあい、お互いに高め合う関係があった。特に、若い世代にこの交流の大切さを伝えたい。

基調講演・中島国彦委員

〔早稲田大学文学学術院教授、近代文学専攻〕

漱石について詳しい知識を持つ一般の人はたくさんいる。愛好者の期待に応えられる高いレベルの活動を展開し、ここに来れば漱石のことは何で

も分かるといった、高い学術性を備えた施設を目指したい。昨年度の基礎調査から始まった新宿区の取り組みが全国に伝わり、気運の高まりや反応が帰ってくれば非常に望ましく、漱石に関する資料の受け皿としても利用されるようになるとうい。



中島国彦氏

基調講演・中川武委員

〔早稲田大学理工学術院教授、建築史学専攻〕



中川武氏

この場所は生誕地であり、中川氏の棲家でもあり、特に重要な場所である。書齋や客間の広さ、玄関の奥の部屋の形状など、写真や記録が残っていないものの、江戸末期から明治初期の木工たちの技術で造られており、類推は可能である。

復元した「漱石山房」をまちなみの中に置くのか、それとも施設の中に置くのか、その置き方についても色々あるが、今後の課題である。検討会に参加されている方々は、施設ができたあとにもサポーターになってほしい。

委員の声

- ・近所に住んでおり、漱石公園の来訪者に道を聞かれる。今は、少しがっかりされることがあるので、胸を張って紹介できる施設にしたい。
- ・文京区から新宿区にかけての風情のあるまちなみが好きだ。周辺環境と調和した、現代における文学の拠点になるとよい。
- ・漱石公園で子どもを遊ばせている。公園としての基本的な機能は残しつつ、世界に発信できる地域資源として活かしてほしい。

〔問い合わせ〕新宿区文化観光課文化資源係

TEL. 03・5273・3563